

公益社団法人日本義肢装具士協会

平成 30 年度 事業計画

(平成 30 年 5 月 1 日～平成 31 年 4 月 30 日)

事業概要

本会の事業は、講座事業、災害支援事業、学術大会、研修セミナー、国際支援活動事業、学術誌・白書の発行など、臨床現場において対象者に質の高い適合技術を提供するため、義肢装具士の資質の向上、専門知識の向上を図ることにより、対象者の社会参加と社会的理解の促進が直接的目的であり、ひいては国民の保健・医療・福祉に寄与することを目的としている。

I. 公益目的事業

1 義肢装具をはじめとした福祉用具を必要とする者の生活の質の向上に資する事業

1-1 講座事業

本事業では、国民に対し、義肢装具等の福祉用具を必要とすることが非日常ではないことや、義肢装具等の福祉用具を使用しながら良質な日常生活を送ることに対する理解を深め、対象者の日常生活の質の向上を目的として実施する。

1) 市民公開講座（学術大会の開催に関する事業）

平成 30 年 7 月 22 日 札幌コンベンションセンター

2) 義肢装具体験イベント（障がい者、義肢装具士の啓もうに関する事業）

平成 30 年 9 月 8 日 西東京市立 保谷中学校

1-2 災害時支援事業

本事業では、国内外の自然災害等の被災地域において被災生活を送る者への生活支援及び義肢装具等の福祉用具の供給に関する支援を各行政機関や関連団体と連携して実施する。

1) 大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）の構成団体としての取り組み（大規模災害被災者支援に関する事業）

2 義肢装具をはじめとした福祉用具に関する学術・技術の向上、研究開発及びその成果の普及・振興に資する事業

2-1 学術大会

本事業では、義肢装具等の福祉用具に関する学術を普及・発展させ、臨床に役立つ知識と技術を向上させる目的で、教育講演並びに対象者に関する医療、リハビリテーション及び日常生活面での支援について臨床経験又は学術経験を有する者の研究成果発表、及び最新機器等の情報提供を行う。

1) 学術大会（学術大会の開催に関する事業）

平成 30 年 7 月 21、22 日 札幌コンベンションセンター

2-2 研修セミナー

本事業は、義肢装具士が義肢装具等の福祉用具に関する最新技術又は知識を学び、臨床において従来から実施している医療技術を応用発展することで、対象者へより良質な医療技術の提供を実現することを目的としている。

1) 研修セミナー（研修セミナーに関する事業）

- ・平成30年8月25日 担当：研修委員会 東北支部
「生活を支える義肢装具・今後の義肢装具士の役割と課題 第1弾」
- ・平成30年9月29日 担当：研修委員会 北海道支部
「多職種を理解する 第5弾 フットケアと義肢装具士」
- ・平成30年10月21日 担当：研修委員会 西日本支部
「スポーツ義足の基礎知識」
- ・平成30年11月24日 担当：研修委員会 中部日本支部
「側弯症と装具療法セミナー」
- ・平成30年10月6～8日 担当：研修委員会 東日本支部
「坐骨収納型ソケット実技セミナー 第10弾～FINAL～」
- ・平成30年10月20日 担当：東日本支部
「義肢装具士業務における自己評価 ～学びの履歴と経験の可視化～」
- ・平成31年2月3日 担当：研修委員会 南日本支部
「先輩のテクニックを盗め 側弯症装具 採型適合編」
- ・平成31年3月10日 担当：研修委員会
「装具適合に必要な評価学 第4弾 変形性膝関節症に対する評価とバイオメカニズム」

2-3 新たに資格を取得した者に対する教育セミナー

本事業は、新たに義肢装具士の資格を取得した者に対し、義肢装具士の業務について理解を深め、義肢装具士が対象者にとって医療技術を習得した専門家としての支援者になるための育成カリキュラムを提供する。

1) 生涯学習・基礎プログラムの実施（生涯学習に関する事業）

- ・平成30年5月以降 各支部で実施 担当：生涯学習委員会

3 国際協力及び貢献に資する事業

3-1 国際支援活動事業

本事業は、福祉用具に関する技術及び使用に関して発展・開発途上にある国又は地域の人々に対する支援として、海外在住の対象者(国籍問わず)に対し、日本の福祉用具に関する最新医療技術を提供する義肢装具士の活動に対して助成するもので、義肢装具士の技術及び臨床経験を活かして、海外の対象者の日常生活の質の向上及び福祉用具の普及・発展を図るための、国際協力・国際貢献事業である。

1) 国際支援活動助成の実施（国際交流及び国際支援に関する事業）

3-2 関連団体との連携・支援事業

本事業では、医療技術関連団体と連携協力し、国内外の福祉用具に関する医療技術の普及・発展に貢献できるよう活動を行う。公益法人及び公益性のある団体が実施する学術、教育、講演、国際支援などの活動に対し、学術・技能向上のための提携交流、支援活動、助成等を行うことがある。

- 1) ISPO 世界大会 2019 への支援（国際交流及び国際支援に関する事業）
- 2) 各地域における（一社）日本義肢協会、（一社）日本義肢装具学会等の義肢装具関連団体との協力・協働事業の実施
- 3) 患者団体への支援事業

平成 30 年 5 月 3 日（札幌市）

改訂された下肢装具の交付基準について、ポリオ患者会「北のポリオの会」への情報提供

4 義肢装具をはじめとした福祉用具に関する刊行物の発行及び調査研究事業

4-1 学術誌「PO アカデミージャーナル」

福祉用具に関する学術論文集として、学術大会等で発表され、その研究成果について討議された義肢装具士の優れた研究論文及び義肢装具士の職域に関連する学術情報を特集記事として提供する学術誌を発行する。

- 1) PO アカデミージャーナルの発行（学術誌の編集に関する事業）
 - ・ 26 巻 1 号（平成 30 年 6 月発行予定）
特集「機能的足底装具」 担当：編集委員会 東日本支部
 - ・ 26 巻 2 号（平成 30 年 9 月発行予定）
特集「断端周径変化に対するソケットのアプローチ」 担当：編集委員会 中部日本支部
 - ・ 26 巻 3 号（平成 30 年 12 月発行予定）
特集「感性工学と補装具」 担当：編集委員会 西日本支部
 - ・ 26 巻 4 号（平成 31 年 3 月発行予定）
特集「他業種との交流（コラボレーション）」 担当：編集委員会 南日本支部
 - ・ 26 巻特別号（平成 30 年 6 月発行予定）
第 25 回日本義肢装具士協会学術大会講演集 担当：第 25 回大会実行委員会

4-2 白書の発行

対象者へのより質の高い福祉の増進を実現するため、福祉用具に関する実態を調査し、義肢装具士の技術の展望を検証する。医療領域、福祉領域、労災領域等核領域における福祉用具の需要と供給の実態調査や義肢装具士の実態調査及び展望など、各テーマにそった調査・編集を行い、白書として刊行する。

- 1) 白書の企画・編集

II. その他の事業（相互扶助等事業）

1. WEB サイトでの会員限定の情報提供
2. 各支部（地域）での会員管理や運営方法についての会議

3. 会員表彰

Ⅲ. 理事会・総会等の開催

1. 理事会

1-1 平成 30 年 6 月 23、24 日開催： 平成 30 年度決算及び事業報告の決議、下記事業等の検討

- ・義肢装具士の養成教育に関する事業
- ・認定制度に関する事業
- ・専門制度に関する事業
- ・義肢装具士の職業倫理に関する事業
- ・『義肢装具士業務指針』の見直しに関する事業
- ・義肢装具士業務の対価の検討に関する事業
- ・地域包括ケアシステムに関する事業
- ・パラスポーツの支援に関する事業

1-2 平成 30 年 9 月 22 日開催： 各事業の進捗確認

1-3 平成 30 年 12 月 22 日開催： 各事業の進捗確認

1-4 平成 31 年 3 月 30 日開催： 平成 31 年度事業計画及び予算案の決議、平成 30 年度の総括

2. 総会

2-1 定時社員総会 7 月 22 日開催予定： 平成 30 年度決算及び事業報告の承認等

以上